

《別添》

令和6年5月25日
第1回防災活動意見交換会

防犯防災部長あいさつ

土曜日の貴重なお時間に本会議に参加をいただき、誠にありがとうございます。一年間、何卒よろしく申し上げます。

今年は元日早々に能登地方で大きな地震が発生しましたが、この地域は最近群発地震が発生し、それなりに住民の心構えや備えはできていたはずが、後継者不足や人口の減少で、住む家を渡す次世代も少ない中では自宅耐震化は進むはずはなく、市の財政力も後退の一途にあり、災害対策に注力する余裕が到底なかったことが被害を拡大させ、半年近い今でもライフライン復旧のない苦しい生活を強いられている地元の住民は少なくありません。なすべき行動、備えが行えなかったことが、被害を長期に拡大させている大きな原因といえましょう。

私どもが住む柏市は、ここ何十年もの間、大きな自然災害に遭遇することはない、市民の中にはそうした災害への危機意識はかなり薄いように思われます。そのため、行政も2年半前に就任された太田市長は防災を重点市政のテーマの一つに掲げていますが、それが市職員レベルまでは必ずしも十分に浸透しきれていないと感じるのは、こうした柏市が自然災害をほとんど経験していないことに起因しているのかもしれない。

先日のNHKニュースでは、千葉県内の自治体で、大規模自然災害発生時に孤立する地区を抱える自治体が以前に比べて増加していると報じられていました。その多くは房総地方らしく、見方を変えますと、私どもの住む柏市はそうした地域に含まれていないことで、これまでに経験のない大きな被害を受けても、自衛隊の出動はこうした孤立集落の多い地域に優先して向かいますので、柏市に自衛隊が支援に来ることはほぼ期待できません。一方で、昨年度の柏市総合防災訓練（柏の葉地域で実施されました）では、自衛隊の災害対応のデモンストラクション（炊出し訓練）を市民に紹介するコーナーが設置されるなどは、ある意味で誤った情報（災害時は自衛隊が駆けつけてくれる）を市民に伝播してしまうことを意味します。

こうした誤情報の伝播により、最悪の場合、災害本番では市民の命が危ぶまれることにも直結しますので、訓練自体の内容にも危険がはらんでいると考えます。私どもは、今年の防災活動のテーマに「災害時の適切な（正しい）行動で命を守る」を掲げ、この一年間、活動を進めて参りますので、何卒、各団体からの積極的なご参加をお願いいたします。

風早北部地域ふるさと協議会
防犯防災部長 古山博之